

「歯科麻酔学指導施設における歯科麻酔管理症例の安全性に関する後ろ向き予備調査」の概要

日本歯科麻酔学会が認定している全国の歯科麻酔学指導施設（大学病院を含む 31 施設）では、歯科または口腔外科で処置または手術を受けられる患者様に対して、麻酔管理を行っております。各施設には専任の大学教授およびそれに相当する歯科麻酔指導医が常勤しており、常に安全・安心の麻酔を提供しておりますが、さらに安全性を高める使命があると考えております。そこで、各歯科麻酔学指導施設で行われた麻酔管理症例で、突発的に発症した合併症（偶発症と呼ばれています）のうち重篤な症例について、各施設の麻酔記録をさかのぼって調査し、それらを収集・分析した結果を、より安全な麻酔管理のために活用していくことが必要と考えます。この調査は、そのための予備調査で、調査の実施・収集・分析が円滑に行えるよう調査方法を修正した後に、通年の本調査を実施することにしております。

研究期間は、平成 25 年 10 月の理事会承認後から平成 26 年 8 月 31 日までで、全国の歯科麻酔学指導施設での全歯科麻酔管理症例数および偶発症症例数とその内容について、短期間（2 か月間）の指導施設ごとのデータを収集し、それらのデータを学会事務局に収集し、分析します。ただし、この調査は症例数と偶発症の内容を集計するだけで、いわゆる個人情報扱いません。さらに、症例の連結不可能匿名化を図っており、施設名も特定できないよう配慮致しております。また、連結不可能匿名化された情報であっても学会への情報提供に応じて頂けない症例に対しては提出ファイルから除外される措置を講じております。

なお、この調査は予備調査ですので、集計結果は公表いたしません。